

# 学生が活きる街、弘前。

## ～映像制作を学ぶ弘前大学生 高橋咲也氏～

令和3年10月23日(土)、カメラ機材を片手に現れたのは弘前大学人文社会科学部に通う高橋咲也氏。  
映像に対する想い、今後の展望、今考えていることを語っていただきました。

### 映像制作との出会い

彼は今年の春から、偶然の出会いをきっかけに、science works. 五十嵐仁氏の元で映像制作を学び始めた。

今年一月、彼が所属するスケートボードグループ「ASK film」のインスタグラムに五十嵐氏から写真を撮らせて欲しいとのメッセージが届いた。その撮影依頼を受けた後に、映像制作に興味があると伝えたところ指導してもらえたこととなった。それから、個人で撮影の依頼を受けながら、五十嵐氏の撮影現場にも同行し勉強を続けている。

彼は、「自分が撮影した映像をみんなで確認する時間が好き」と映像制作の魅力について語る。  
「すごい」「かっこいい」そんな言葉が映像制作を続ける原動力になっている。



## 『弘前は楽しいなと思いますよ、弘前でよかったなって。』

佐藤 弘前、好きですか？

高橋 僕、後期試験で弘前大学に合格したんですよ。だから、最初は、弘前、鬼来たくなかったすよ。でも、今は弘前楽しいなと思いますよ、弘前でよかったなって。

佐藤 そう思えるようになった理由を教えてください！

高橋 知らない世界に連れて行ってくれる社会人との出会いは大きいかなと思います。五十嵐さんからは、自分が映像制作を仕事にする将来を夢見ちゃうくらいの熱量をもらってると思います(笑) なんか、本当に面白い人たちといっぱい出会えて…本当ラッキーだなと思いますけどね、今自分が置かれている環境は。

あなたにとって  
**弘前**とは？



### 公開中の作品と今後について

彼は、現在PV動画の撮影などを行なっている。今年十月二五日には、新しくスタディカフェぼんようのPV動画を公開した。今後も映像を通じて繋がりを作り、パフォーマンスや地域のお店のPV動画を作成したいと語っていた。今後も、彼の活躍が楽しみである。

### △公開中の作品▽

古着屋THE FICTION PV

スタディカフェぼんよう PV

津軽三味線とダンスの融合 天仁舞弦  
映像制作担当

### 編集後記

学生がやりたいことに打ち込める環境があること、本市の魅力であると感じた。学都と呼ばれる弘前市だからこそ、まちづくりはここから始まるのではないかと考える。

# 子ども食堂すこやか ―居場所をつくり続けること―

『子ども食堂すこやかプロジェクト』は、無料の学習支援と食事提供をおこなっており、「子ども食堂すこやか」の開催数は累計九〇回弱ほどにもなる。四〇〇八〇代の八人が中心となり、多くのボランティアの協力により運営されている。県内で二番目に開催された子ども食堂であり、今年で六年目となる。

## 弘前市内の現状

母子世帯数： 県平均の約6倍  
全国平均の約3倍

2021年現在の  
子ども食堂数は  
11カ所  
※活動休止中も含む

小学校数に対する  
子ども食堂数の  
割合は17.1%

ひとり親世帯に対する子ども食堂数の  
割合は11.2%（全国平均より高い）  
⇒市中心部に集中しており  
遠方からのアクセスが不便

参考  
・「政府統計の総合窓口(e-Stat)」  
調査項目を調べる―国勢調査「世帯構造等基本集計」  
・NPO法人全国子供食堂支援センター  
むすびえ 弘前市役所ホームページ  
・平成27年 総務省統計局国勢調査

## 活動のきっかけ

佐藤さんは定年退職をきっかけにボランティア活動の開始を検討。県内の子どもの貧困率が高く、それに対する行政の対応の不足を感じていたという。そこで「行政と未来ある子どもたちの隙間を埋めたい」と二〇一六年に『子ども食堂すこやかプロジェクト』を開設。「裾野を広げ、目に見えない貧困や、ひとり親世帯のために、誰でも来られるような空間を積極的につくっていききたい」と話す。

## 子ども食堂の役割とは

経済的に厳しい家庭の  
子どもを集めて  
食事をするところ

子どもの  
学習支援

子どもの  
孤食を防ぐ

地域交流拠点

事務局長  
佐藤まさ

## 継続して成長を見守り続ける

現在感じている苦労は、子ども食堂を『継続』することだという。事業継続のために最低限必要なのは「人材・物資・資金・場所」である。またコロナ禍により、開催の可否や感染症対策など、課題が増加した。そして、後継者の育成や活動の発信方法も、地域ボランティア団体の重要な課題であるという。

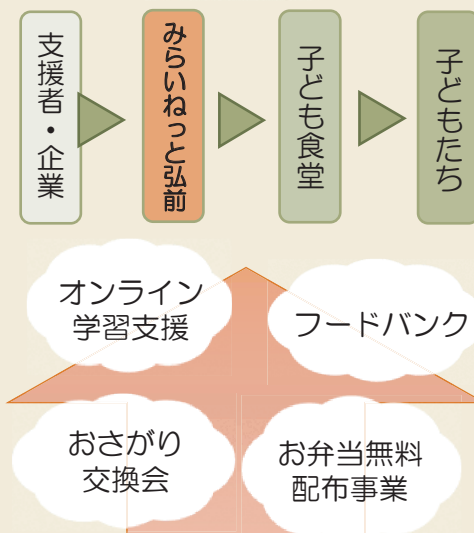
団体では、開催後にミーティングを行い、子どもたちの変化や成長など感じたことを共有し合う。取材当日はお弁当の配布のみだったが、普段の活動には十五名程度の子どもたちが訪れる。「大きなところで子どもたちと接し、子どもたちの元気な顔を見ることが支えになる」と佐藤さんはいふ。訪れた親子と会話し、子どもの成長の喜びを共に感じる様子もみられた。

一日の流れ	
9:00～	事前ミーティング
10:00～	学習支援・遊び 食事準備
11:00～	食事
終了後～	アフターミーティング 後片付け



子どもたちにお弁当を配布する様子

## 活動の例



**子どもたちの未来へつなぐ**

市内の子ども食堂数の拡大を目指す上で、課題となるのが担い手不足である。現在弘前市にあるNPO法人「みらいねっと弘前」では、子ども食堂などのボランティア団体と支援者をつなぎ、持続的な活動への支援をおこなっている。また、子ども食堂の新規開設者を後押しするために「子どもの居場所作り実践研修会」など、ネットワークの拡大を図る活動もおこなっている。

## 編集後記

取材を通し、子どもの貧困に対する様々な取り組みがあるということを知り、地域全体での持続的な取り組みが重要であることを実感した。また、調査方法にも事前知識や質問の聞き方への工夫が必要であると感じた。



# 弘前母子寡婦福祉社会の子育て支援

## サタデイ☆くらぶでの学習支援

地域で見守る ひろさきっ子

「サタデイ☆くらぶ」とは、平成26年から実施されている、ひとり親家庭の子どもを対象とした学習支援ボランティアである。きっかけは札幌市母子寡婦福祉会の「まなとぴあ」であり、弘前大学の teens&law というサークルの声がけで活動が開始された。また、弘前市との共催により会場はヒロロで、学生や子どもも安心して参加できる。

活動の目的は、①学習習慣を身につけ学力向上を図る、②生活の相談を通じ、ひとり親家庭の不安を解消する、③ワーキングプア、貧困等の負のスパイラルを防ぐ、など様々挙げられる。活動の際には、「机に向かって勉強する」だけの学習支援にはせず、子どももお母さんも楽しみながら何かを得られるように心がけている。実際に参加した子どもからは、「わかりやすく教えてもらえた。参加者同士で遊べたので楽しかった。」という声があった。新型コロナウイルスの影響で、開催できない時期もあったが、感染防止に努めながら活動している。勉強のサポートはもちろん、おしゃべりやカードゲームでの遊びなど、気軽に参加できる内容になっているので、ぜひ参加してみよう！

### サタデイ☆くらぶの効果

- 勉強が楽しくなる
- 学校以外で友達ができる
- 進路や夢が見つかる
- 「自分」を認めてくれる

⇒子どもの居場所となる



勉強以外ではこんな課外活動も…

- 知育ゲーム
- 工作教室
- クリスマス会
- お花見会
- すてきママ講座
- 親子で学ぶ社会のしくみ

「すべてが学び」の姿勢で活動しています！

### サタデイ☆くらぶ

開催日：毎週土曜日

午前9時半～11時半

会場：ヒロロ3階 多世代交流室

持ち物：勉強道具、筆記用具など

対象：弘前市および近郊在住のひとり親家庭の小中学生

主催者  
弘前母子寡婦福祉会  
(ひろさき  
マミースマイル)  
取材日  
10月27日

## 弘前母子寡婦福祉会

### 「ひろさきマミースマイル」について

ひとりで子育てをし、ひとりで生活を支えているシングルマザーやシングルファザーの家庭の悩みや苦しみを和らげ、互いに助け合い、励まし合いながらひとり親・寡婦の福祉のために活動している団体である。歴史は長く、第二次世界大戦の時より戦争で夫をなくした女性達が自分と子供を守るために「わが幸はわが手で」を合言葉に、立ち上がり全国各地で未亡人会や母子福祉会を発足したのが始まりとされている。そして、現在では全国のほとんどの地域で母子福祉会から名前を変え、母子寡婦福祉会として運営されており、「ひろさきマミースマイル」もその内の一つとして存在している。その活動は多岐にわたり、今回紹介したサタデイ☆くらぶといった学習支援の他、福祉向上のための活動として、クリスマス会やアロマ講座といった親子でのふれあいの場を作る活動を行ったり、ひとり親家庭に対して相談事業や勉強会を開催したりしている。

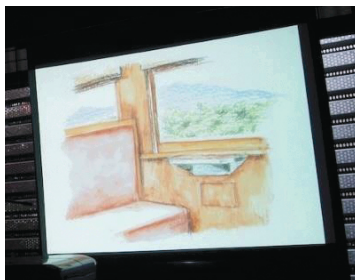
平成26年度に行われた青森県ひとり親世帯等実態調査結果によると、ひとり親世帯の約82%の世帯は年収が200万円未満であり、ひとり親世帯は経済的にも厳しい状況にある。その中で、今回取材させていただいた「ひろさきマミースマイル」代表の引間さんは、子供たちにとっても、お父さんお母さんたちにとっても、「ひろさきマミースマイル」に来たら、「楽しい」、「分かる」、「分かり合える」、「さっぱりする」、「居心地がいい」と思ってもらえる場所であるように、そして「すべてが学び」という基本的姿勢は今後もぶれずに、活動を継続していきたいと述べた。

### 編集後記

取材を行うにあたって、我々も学習支援ボランティアに参加させていただいたが、馴染みやすい雰囲気、緊張することなく参加できた。スタッフである大学生も小中学生の皆さんとの会話が刺激になり、とても充実した時間となった。

# 太宰治ドラマリーディング

実際に団員によって描かれた挿絵。



令和3年8月9日（月）青森県弘前市御幸町の太宰治まなびの家にて、アマチュア声優劇団「津軽カタリスト」による「太宰治リーディング夏の定期公演が開かれた。また、YouTubeにてライブ配信も行い、全国から公演を鑑賞することができた。

弘前市市民参加型まちづくり1%システム活用事業である「津軽カタリスト」は、団員約四十人、老若男女さまざまな人が参加している。津軽地方各地で、津軽ゆかりの文学作品などを、朗読だけでなく、音楽や挿絵にもこだわった「ドラマリーディング」の形で披露している。活動開始から九年を迎える今回の公演では、太宰治の「たずねびと」「雀」「満願」「庭」の四作品と「猿蟹合戦」が披露された。これらの作品について、劇団代表の平田成直さんは、「今回は、夏バージョンで、夏にまつわる作品を選びました」と話していた。



朗読する団員のみなさん

今回の公演を身にきた観客の一人は「みなさん上手で楽しませていただきました。」と話していた。平田さんは、ドラマリーディングの魅力について、このように語っていた。「ドラマリーディングはお芝居と違って、芝居が低く、誰でもできることが魅力です。」また全国の方へのメッセージを尋ねたところ、「珍しい活動ではありますが、ドラマリーディングの読書と違い、作品が動き出す感覚を楽しんでほしいです。太宰好きはぜひ。」と笑顔で答えていた。



太宰治まなびの家は、太宰が官立弘前高校へ通うために下宿していた家。ここで聞く太宰作品は他にはない魅力が感じられる。

## 編集後記

団員一人一人の個性が存分に生かされていて、すぐに物語の世界に引き込まれる公演でした。ぜひ、津軽カタリストのドラマリーディングを弘前市の方々は、もちろん、全国の方々に聞いてもらいたい。

北山琥太郎



優しい声で朗読する省吾さん

「自分のファンができること。」と明るく話していました。これからの目標を聞いてみると、フェイスブックで津軽カタリストの活動を知ったことが参加するきっかけであると話してくださった省吾さん。団員の一人である山内省吾さんは今回の公演が初参加でした。

## 初参加 山内省吾さん

主催者  
津軽カタリスト

津軽カタリスト  
夏の定期公演  
夏の日 其の八



# 人に会いに行くツーリズム

## 津軽の普段を、ふかぐ、あさぐ まちあるきツアー

10月15日取材

取材先 津軽まちあるき観光推進実行委員会

(公益社団法人弘前観光コンベンション協会内)

前事務局長 坂本 崇 様

津軽まちあるき観光推進実行委員会は、地元のガイドと一緒にまちを歩いて観光できる「まちあるきツアー」に取り組んでいる。「ふかぐ、あさぐ」とは、津軽弁で「深く歩く」ということを意味し、従来の観光では行かないような路地裏や小路を歩き、ディープな所まで楽しむことができる。まちあるきツアーの立役者である坂本様にお話をうかがうことができた。

このツアーが始まったきっかけは、観光のニーズの変化や観光客の増加にある。遡ること三十年以上前、バブル期の観光は社員旅行などの団体旅行がメインであった。その後、観光形態の多くは個人旅行に移り変わり、旅行プランをカスタマイズできるようになった。それに伴い、観光客のニーズはガイドブックに載っていない部分も求めるように変化した。二〇一〇年には東北新幹線八戸・新青森間開通の効果で、弘前市への観光客が増加し、地元住民の中では仕事の合間に観光地をガイドする人が出てきた。そういった背景で、従来とは異なるユニークな観光として、「まちあるきツ

アー」が始まったのである。城下町である弘前市の複雑な地形ゆえに、歩きでの観光が向いていることも「まちあるき」の理由の一つである。地元ツアーガイドの中でも、特に有名なのは「弘前路地裏探偵団」ではないだろうか。個性的なガイドの案内するツアーでは、郷愁を感じるレトロな雰囲気の中を、江戸川乱歩の小説『少年探偵団』に登場する探偵になりきってまちあるきができる。

地元住民にとっては当たり前のことでも、観光客にとっては意外なもの、興味深いものであり、観光資源の可能性がある。観光客が見たいものと、観光ツアーがしたいことの乖離を埋めるものこそが「まちあるき」なのである。



【上】津軽まちあるきガイドブック 2021 表紙

【下】ガイドブック内ツアー一例



参加者は、特に三十代の女性が多く、スイーツのお店が多いからと考えられる。参加者全体の年齢層は高く、年齢を重ねるごとに、ルーツを辿って歴史を知ろうとする傾向があるため、それを旅行に求めているのではないかと推測する。

まちあるきの今後の展望は、弘前市にあるものを生かし、その魅力をどのように伝えるかを考え、時代や観光客のニーズに答えていくことである。観光を通して弘前ファンを増やし、気に入ってもらえれば移住につながることも期待できる。実際に気に入るかどうかは、あなたが魅力を感じられるようなまちあるきツアーに参加して確かめてみてはいかがだろうか。



# 弘前おもちゃ病院に潜入!!

取材日 2021年 8月22日

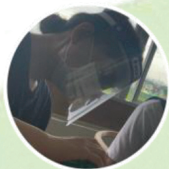
## おもちゃ病院ってなに？

日本おもちゃ病院協会は、おもちゃを原則無料で修理し、新しい生命を与えることに価値を見出し、生きがいを感じているボランティアグループとして1996年に全国組織化した。弘前おもちゃ病院は2008年4月1日設立。

青森県では青森市、五所川原市、つがる市、八戸市、平川市、弘前市、三沢市、むつ市で設立している。

取材した弘前おもちゃ病院では、おもちゃを直す側を**ドクター**、壊れたおもちゃを**患者さん**と称して活動している。弘前市では27名、青森県では130名がドクターとして活動している。壊れてしまったおもちゃを目の前で修理する形式で、現在はコロナ感染対策を十分に行ったうえで規模を縮小して開催している。

## ドクターの方々に聞いた！



成田さん

目標は「親子でおもちゃドクター！」  
おもちゃ病院では、みんなが『おもちゃが直ってほしい』という思いで活動しておりアットホームな雰囲気も感じられる。

小山内さんに誘われたのがきっかけ。  
プラモデルを作るのが得意で、仕事と両立してドクターをしている。



猪股さん

趣味が高じてドクターに。  
昔の物から今の物まで幅広く直していると、おもちゃの歴史を感じることができ面白い！なにより、おもちゃが動いたときは最高の気持ち！  
技術が形として残ることがとても嬉しい。



あぼさん

患者さんにとって愛着のあるおもちゃを直せるのは楽しい。



ヤマさん

※おもちゃ病院では受付をナースと呼んでいます！

**ナース募集中!!**

## 自分が最初に始めなければ

2008年に弘前おもちゃ病院を設立した おきない 小山内 忍 さん。



小山内さんが東京に住んでいたときに、当時幼かった娘のおもちゃを、自分一人で直していたが、もっと良い直し方がないかとネットで探していた、おもちゃ病院の存在を知ったそうだ。その後、おもちゃ病院が全国にあることを知り、東京でソフトウェアの仕事をしている時期に、まだおもちゃ病院がなかった青森県で、一番に始めようと考えたそうだ。

東京のおもちゃ病院に参加してみると、ドクターの大半はすでに会社を退職した人だったが、当時30代だった小山内さんを暖かく歓迎してくださったそうだ。おもちゃ病院の中でドクターのみなさんはとても生き生きしている印象があったと語っている。

弘前で始めた最初の頃は、会場を借りるのにも苦労しながら、おもちゃ病院は小さな部屋で家族と共に始まった。

ときが経つと共にコミュニティが広がり、SNS、テレビやラジオへの出演を通してその活動が広がっている。

## 利用したお客様の声

- ・宝物が宝物のままでいられる。
- ・おもちゃ病院の存在を知ってから、子供のおもちゃへの意識が変わった！
- ・おもちゃが壊れたから捨てる。のではなく、あそこに直しに行こう！と思える存在。

## 編集後記

コロナの影響で満足のいく取材はできなかったが、おもちゃ病院でしか感じる事のできないアットホームな空間は、初めて訪問した場とは思えないほど居心地がよかった。この雰囲気が、おもちゃ病院のコミュニティを拓ける大きな要因かもしれない。

柳田 実海

物の大切さを知り、大人から子供まで交流できる素敵な場所だった。またコロナ前のようにたくさんの人が集まって笑顔になれる場所になることが楽しみだ。

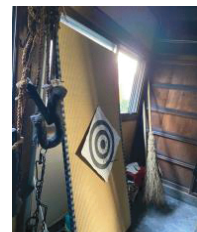
柳田 夢奈



# 弘前市の忍者屋敷へ潜入！

2021年  
10月2日発行

佐藤 和佳子  
横澤 知奈



↑ 棒手裏剣の  
体験コーナー

令和三年九月二十五日土曜日、私たちは弘前市森町にある「弘前忍者屋敷」の見学会に参加した。この屋敷は様々な防衛の仕掛けが施されている甲賀流忍者屋敷である。ここでは、毎週末見学会が行われており、説明を聞きながら屋敷の細部まで見学できる。例えば、敵の侵入に素早く気付くための軋む床（写真左下）や、壁の裏の隠された空間、開かない扉、複数ある隠れ場所など、敵の侵入に備えた仕掛けが数多く存在する。さらに、見学者は棒手裏剣の体験（写真右下）や、忍者服の試着をして楽しむことができる。屋敷内には依然として解明されていない謎も存在するため、訪れる人の好奇心を掻き立てる。



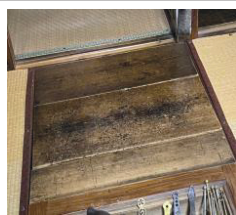
忍者のポーズ  
をとる 佐藤光  
磨さん

## 弘前大学忍者部に迫る！

皆さんはご存じであろうか。弘前大学忍者部の存在を…。忍者部は十人ほどが所属しており、普段は護身術や忍者の知識を学んでいるそうだ。それ以外にも他のサークルと合同して鍋を囲むことなどもあり、活動は比較的自由だそうだ。部員である弘前学院大学の堀野さんは、ウォーキング中に、屋敷を発見し、遊びに来るようになって入部したという。このように、誰でも気軽に入部できるのも特徴である。取材をした日は、護身術を学び、その後お菓子をつまみながら、おしゃべりをして楽しんでいただようだ。忍者部では様々な知識を得るだけでなく、様々な人との交流を深められるコミュニティとなっている。

## 今後の活動について

コロナの影響で以前よりも観光客の人数が減った今、忍者屋敷のオーナーである佐藤光磨さんに今後の展望について話を伺った。佐藤さんは、コロナ終息後、忍者屋敷に多くの人に訪れてもらうために、将来的には屋敷を古民家カフェとして活用しつつ、一方で、弘前市の歴史に触れた忍者ツアーを行いたいと考えているそうだ。また、忍者部としての活動もより一層活性化していきたいという。



→ 踏むときし  
む床

編集後記 今回の取材を通して、見学会では多くの知識を得ることができたが、短時間で効率的に質問をし、まとめることに苦戦した。新聞は書ききれないものではあったが、自分たちが伝えたいことを絞って書くことができてよかった。

# 弘前にアートの裾野を広げたい

## 「アートワールドひろさき」の取り組み

2021年  
10月22日、28日  
取材



### アートワールドひろさきのこれから

「弘前のアートをナントカする！」をモットーに、子どもとその保護者を対象とした音楽・美術鑑賞会やワークショップを開催し、地域にアートを届けている団体。活動に携わる弘前大学教育学部出佳奈子准教授は、「弘前という都市圏から遠く離れた地域でも、子どもたちが色々なアートを試せて、より質の高い作品を鑑賞できる機会を創りたい」と話す。

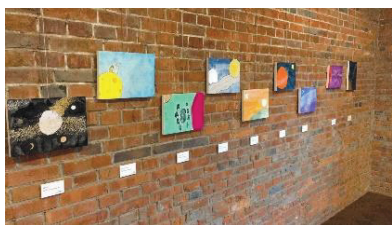
### 子育て+アート+〇〇

年に数回開催される「poco a poco アートのたまご」のワークショップは、募集開始後数分で予約が埋まるほどの盛況ぶりを見せている。10月10日・17日に行った「実験☆ワークショップ」では、子どもたちは理科の実験で金属の性質を学んだあと、金属箔と日本の伝統技法で「宇宙」をテーマに生き生きと筆を走らせた。実験や製作の場面では弘前大学教育学部の教員と学生スタッフが補助指導を行った。

ワークショップでのスタッフ経験がある弘前大学の学生2名にお話を伺った。2名ともこの活動を知ったきっかけは出准教授の授業内だという。人文社会科学部2年の学生は、「ワークショップを通して、様々な画材を目にすることができるのは貴重な経験。将来的には企画立案にも関わってみたい。」と話す。教育学部2年の学生は、「子どもたちが楽しんでいるのが伝わってくる。絵に興味を持つきっかけになると思う。」と話す。

### 新たな雰囲気へ みんなのコンサート

「みんなのコンサート」の主な活動目的は、地元の音楽家の活動支援と、世代に関係なく音楽に触れられる場所づくりである。市内で行われるコンサートの観客のほとんどが、ご高齢の方であるのが現状。開催に携わる弘前大学教育学部朝山奈津子講師は、「これからも音楽活動が続けて行くには、もっと幅広い世代がコンサートに来てくれることが必要だ」と話す。また、子育て世代から子どもと一緒に気分転換できる場所が欲しいという声を聞き、子どもも親も、誰でも気軽に本格的なクラシックを楽しめるコンサートを目指している。このコンサートでは、一曲4分を超えないなどの工夫が行われ、さらに子どもが泣いても騒いでも、走り回っても問題はない。座席もピアノを囲むように島状に配置したマット席を用意することで、「子どもと密着できる」、「他のお客さんに気を遣わなくていい」、といった声が参加者から寄せられている。



「実験☆ワークショップ」の  
子どもたちの作品



### 編集後記

子どもとその保護者が一緒に楽しめる・安らげる場所づくりとアートを組み合わせた活動により、新たな世代にアートに触れてもらうことは、芸術活動の活性化、ひいては芸術と共生するまちづくりに貢献していると思われる。また、我々もこのような活動に参加することで、「協働によるまちづくり」への一歩を踏み出せるのではないだろうか。

### 今回取材させていただいた先生方



- ・弘前大学教育学部  
朝山奈津子講師  
(写真左)
- ・弘前大学教育学部  
出佳奈子准教授  
(写真右)

最後に、アートワールドひろさきの展望を伺った。ワークショップについては、理科と図工の授業を組み合わせた「実験☆ワークショップ」のように、領域横断型のワークショップを開催したいとのことだった。「それぞれのつながりを発見することで興味を持つてもらえれば」と出准教授は話す。コンサートは、「細く長く続けることが目標。今後は楽器のバリエーションを増やすなどして、色々な音楽の窓口となってほしい」と朝山講師は継続に意欲を見せる。また、子ども食堂や学童保育へアウトリーチを行い、アートの裾野をもっと広げることに関心はあるものの、それには相当な覚悟が必要であり、加えてコロナの関係で実現には至っていない、とのことだった。



ひろさきもちづくり

# 嶽新聞

―岩木山に佇む  
温泉旅館―

弘前市岩木地区の嶽温泉街にある山のホテルは、古くから地元の人々や観光客から愛される湯治場として知られている。開業から三四七年と歴史は古く、先祖が考案した山菜などの山の幸を用いたマタギ（猟師）飯が人気だ。こうした場所が、コロナ禍で行われたイベントで話題を呼んでいる。

取材先

津軽国定公園  
嶽温泉  
山のホテル

取材日時

令和3年  
(二〇二一年)  
9月25日  
土曜日

## 歴史347年 山のホテル



## もちづくりは人からはじまる

山のホテルでは様々なお店が集まる「山ルシェ」や、ドールオーナーのためにために貸し切りのイベントを行うなど、今までの形式にとられない企画を実施している。

山のホテル常務、赤石香織氏は、継承者であり企画者だ。実は、ホテル業を継ぐか否か悩んだそう。決心後は「やる」と決めたら気が済むまでやる」の精神で、いつも利用してくれるお客さまの実際の声を聞いて企画をつくっている。例えば、ドールの撮影イベントは、自由に撮影できる機会が欲しい、というドールオーナーの声から、館内貸切で実施した。イベントの当日は、多くの人が来場し、喜んだ。赤石氏の企画は、いつも共感・反響をよび、山のホテルは常に賑わいをみせている。地域の人のみならず、遠方の方からも温かいメッセージをもらうことが多く、赤石氏も企画づくりを大変楽しんでいる。地域を超えた人と人のコミュニケーションが形成されていた。



## 山のホテルの これから

赤石氏は、これからは新たな企画を作っていくと張り切っている。直近では、以前から要望があったペットと一緒に泊まることのできる宿泊プランを用意している。さらに、サウナ後に雪に飛び込む「テントサウナ」を実施する。マイナスイメージとなってしまう山の雪の価値を高めていく。

「山のホテルは、複数ある嶽温泉旅館街の一つ。様々な手段を通じて、嶽温泉全体でコロナを乗り越えていけたら。」と述べていた。経営のためだけでなく、誰かのためにつくる。この先コロナ禍でも、山のホテルから嶽全体に人々の賑わいが伝播していくことを祈っている。

## 編集後記

自分自身や誰かの声をくみ取ることで、そしてそれを実際に形にして体験を生み出すことが、まちづくりの第一歩であると感じられた。この一歩の連鎖からひとやものが活性化して、よりよい「まち」がつくられていくってほしいと思う。



# みんなでラジオ体操

## 一大地区 町内連合会

# ラジオ体操で生活リズム改善



八月二十一日から二十三日の三日間、弘前市御幸町の弘前市立大成小学校にて、ラジオ体操が実施された。記者が参加した二十二日は小雨が降っていたにも関わらず、老若男女問わず、のびのびと体操に取り組んでいた。地域の子どもたちと

保護者たちや高齢者たちの健康育成・維持、体力向上を目的として長らく続いてきたこの活動だが、小学生の夏休み終了間際という珍しいタイミングで開催されている。その理由を企画の一大地区町内連合会担当者の山崎さんに聞いたところ、あ

えて夏休み終了直前というタイミングで開催することで、子どもたちに夏休みの間に崩れた生活リズムを元に戻してもらいたいという狙いがあるとのことだった。また、日程を夏休みの始めに設定してしまうと、ねぶた制作の時期と重なり負担が大きくなるという背景もあり、日程をずらしたそうだった。

本活動も例外なく新型コロナウイルスの影響を受けており、感染症対策の為に参加者には間隔を広くとってラジオ体操させていた。また、感染症が流行する前には、最終日に流しそうめんを実施していたが、最近ではきていないそうだった。近頃子どもが流しそうめんを経験することが少なくなっている現在、子どもたちにとって貴重な体験となっていた

め、実行できない現状を山崎さんにもどかしく思っていた。地域単位でのラジオ体操自体はありふれたものであるが、本活動は弘前という土地柄やそこに住む人びとに寄り添って、活動の仕組みを調整していた。地域の人びとの為にもこれから続けて欲しい活動である。



## 絵本の世界へ案内

ラジオ体操が終了した後、絵本の読み聞かせが行われた。ラジオ体操の後にどんなことをすればよいか町内会で色々試した所、絵本読み聞かせが一番組み合わせが良かったそうだった。主に低学年の児童が目を輝かせながら話を聞いていた姿が印象的だった。

記者が特に興味を持ったのは、読み手である金子さんの読み聞かせのテクニックである。始めはクイズ形式の本で子どもたちの心を

をしつかり掴み、活発に対話しながら読み進めていった一方で、その後の本では、子どもたちが若干騒ぎ出してきたタイミングで「しーっ」と沈黙を促すことで、絵本の世界に引き込んでいた。読み聞かせる本に応じて読み聞かせる手法を変えることでここまで子どもたちを惹きつけているのが、尊敬できる点だった。

読み聞かせの後、金子さんからも少々お話を聞かせていただいた。読む本に関しては、時々子どもが本の内容を知っている展開を先に言おうとする場合があるため、その時には臨機応変に対応する他、選ぶ段階でもなるべく子どもたちが読んだことがなさそうな本を選ぶというそうだった。活動のやりがいを感じた所、子どもたちに喜んでもらえることと、本に興味を持ってもらえることだと答えをいただいた。金子さん自身、かつて人間関係に困っていた時に本に助けられた経験があり、将来本が子どもたちの助けになることを望んでいた。また、活動の時間が朝早いため、この活動を通じて金子さん自身も生活リズムを改善できていることを評価していた。

この取材を通して、ラジオ体操や読書など長らく人びとを豊かにしてきた営みを、近代化や感染症流行による生活様式の変容によって忘れさらられないようする為にも、このような活動を大切にしてほしいと思った。



# 勇者コーナンのナゾトキクエスト

子供たちの未来に弘南鉄道を

主催  
弘南鉄道活性化  
支援協議会利用  
促進部会

## 弘南鉄道の利用促進

このイベントは、弘南鉄道の利用促進を目指し、1月10日～12月1日まで開催されている。弘南鉄道はもともと学生の登下校での利用が多く、様々な人々に愛されてきた。しかし、最近は利用者がどんどん減少し、廃線の危機が迫っている。この問題を解決するべく弘南鉄道活性化支援協議会利用促進部会が企画をATREX、制作を株式会社BOKEN WORKSに依頼してこのイベントを創作した。ファミリー層、子供層をターゲットにしているこのイベントには多くの家族連れが参加している。8月上旬までの参加者は約700人で特に小学生の親子の参加が多い。



主催者 市役所職員の方  
信田 洋平さん(右)  
今 隆洋さん(左)

## このイベントの目的は？

近年、沿線地域の少子高齢化と過疎化、さらにはコロナウイルスで、弘南鉄道の存続が危ぶまれています。そこで、この状況を何とか打破したいと思い、弘前を含む5市町村の自治体とその観光や商工関係の団体が構成員となり、地域一丸となって、利用者を増やす取り組みであるこのイベントを開催しました。



弘南鉄道総務部部長  
船越 信哉さん(右)  
企画者 ATREX代表  
豊指 健二さん(左)

## なぜターゲットが子供層？

未来を担う子供たちに弘南鉄道の魅力を直に感じてもらう後世にも残っていて欲しいと思いました。また、スマートフォンなどの普及により親子で遊ぶ機会が減ってきているので、街を歩きながら親子の時間と沿線の街並みを楽しんで欲しいという想いなどで設定しました。

## 冒険する場所

尾上駅

黒石駅



勇者のラッセル・  
コーナン君



## マナーを守って楽しむ！



参加のマナー  
●体調が優れない、または発熱を含む風邪のような症状や体調不良の際は、参加をお控えください。健康と安全確保を最優先に考えていただいた上で、参加のご判断をお願いいたします。●感染症の予防のため、イベント参加時のマスクの着用のほか、こまめな手洗い等ご協力をお願いいたします。

これはパンフレットに示されているもの。各駅や施設にも消毒液などが設置されているので感染症対策を行いながら楽しむことができる。

## 参加者の声

Q このイベントに参加したきっかけはなんですか？

A 駅で偶然パンフレットを見て見た目に惹かれ参加しました。

Q 何か発見がありましたか？

A 普段は全く訪れない場所に来れる機会になり、尾上の盛美園周辺の自然の豊かさや黒石のこみせ通りの風情などを見つけたことができました。

Q 感想を教えてください！

A 思ったよりも頭を使う問題が多く、親子でとても楽しむことができました。またこのようなイベントがあれば参加したいです。



弘前市から参加の  
Mさん親子

## 編集後記

70年以上も沿線地域で愛されてきた弘南鉄道を廃線にしたいくないという強い思いにとっても心を動かされた。これからこのような活動に注目していきたい。